

# 平成27年度財政運営検討W・Gとりまとめ（概要）

資料2-1

項目	今年度の検討状況のとりまとめ		平成28年度に検討すべき主な事項
	方向性	基準等	
保険料・税の区分	統一	・4市町の理解を得た上で、「保険料」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統一時期</li> <li>・経過措置期間</li> </ul>
賦課方式	統一	・「3方式」を基本 (ただし、介護分は「2方式」も含め検討継続)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">                     6年以内の激変緩和措置期間を設定                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多子世帯及び単身世帯等被保険者への影響</li> <li>・具体的な激変緩和措置の取扱い</li> </ul>
賦課割合	統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3方式を採用した際の応益(均等・平等)分は、政令基準(国基準)の「7(35):3(15)」を基本</li> <li>・応能(所得)分は、全国平均と比較した所得水準に応じて按分した比率</li> </ul>	
保険料率	統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準保険料率は、医療費水準の差が比較的小さいことを踏まえ、医療費水準を加味せず統一</li> <li>・標準保険料率で賄う経費は、事業費納付金対象経費と、事業費納付金対象外である各市町村独自保健事業等の実施経費</li> <li>・市町村が実際に定める保険料率も、原則「標準保険料率」と同率で統一 ただし、以下の例外あり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①財政安定化基金への償還財源確保のための保険料率上乗せは容認</li> <li>②累積赤字解消や保険料減免及び一般会計繰入解消による激変緩和等のための保険料率上乗せ・一般会計繰入れは容認【激変緩和措置期間中に限る】</li> </ul> </li> <li>・後期分・介護分についても同様の考え方</li> </ul>	
賦課限度額	統一	・政令基準(国基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な激変緩和措置の取扱い</li> </ul>
保険料減免・軽減	統一	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H30年度から、原則「共通基準」で統一 (激変緩和措置として、当面の間は従前の基準も可能)</li> <li>・「共通基準」の財源は、標準保険料率(事業費納付金)で賄う (激変緩和措置にかかる財源は、各市町村の責任で一般会計繰入れ・保険料率への上乗せで対応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な共通基準の検討</li> <li>・被保険者への影響(激変緩和措置)</li> </ul>
収納率	標準収納率は実収納率 $\pm\alpha$	・標準収納率は、各市町村の「実収納率」を基本に、規模別標準収納率との差に応じた諸条件( $\pm\alpha$ )を加味して設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な標準収納率の設定</li> <li>・目標収納率の設定 (更なる収納インセンティブが働く仕組み)</li> </ul>